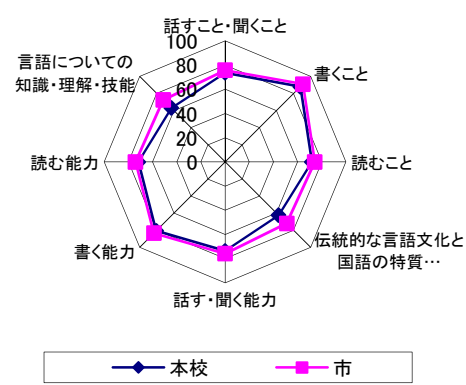


宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.6	75.9	72.1
	書くこと	88.0	91.0	79.2
	読むこと	71.7	74.1	71.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.5	72.0	73.0
観点別	話す・聞く能力	73.6	75.9	72.1
	書く能力	80.6	83.3	72.2
	読む能力	71.7	74.1	71.1
	言語についての知識・理解・技能	63.0	72.5	72.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

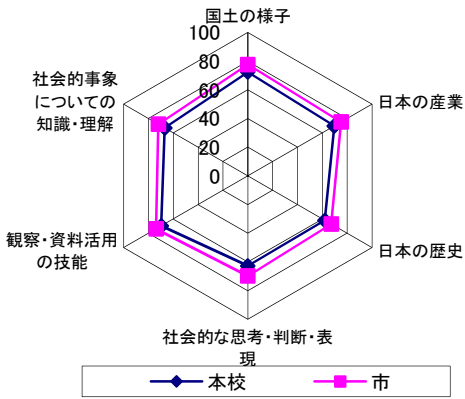
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・司会者の役割を理解して計画的に話し合うことが市平均正答率を上回った。 ・立場や意図を明確にして話し合うことは不十分だった。	・話し合い活動では話し方の型を示し、意見を述べるときは立場や意図をはっきりさせるように意識付けを図る。
書くこと	・自分の意見とその理由を区別して書くことは市の平均正答率を上回った。 ・与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書くことは不十分だった。	・文章は意見と理由を区別して書くことができたので、今後も読み手を意識することで分かりやすい内容になるようさらなる定着を図る。 ・情報を正確に読み取ることで、つながりのある文章を書くことができることを指導していく。
読むこと	・物語文で登場人物の心情を読み取ることは市の平均正答率を上回っていた。 ・説明文で文章の内容を的確に読み取ることが不十分だった。	・登場人物の心情を読み取る力が身につけているので、今後も気持ちに寄り添いながら読んでいこう、読み取りの視点を押さえた指導をしていく。 ・接続語やキーワードに目を向けながら読み取りを進めるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・5年生の学習の漢字の読み書きや3字の熟語の構成についての理解が不十分だった。	・漢字は随時復習する機会を設け、文章を書くときには既習の漢字を使うよう指導していく。 ・熟語を使った短文作りなど、使う機会を設けていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	72.4	77.6	77.6
	日本の産業	69.6	75.1	67.5
	日本の歴史	62.0	67.2	62.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	62.7	69.7	64.7
	観察・資料活用 の技能	69.8	73.8	68.5
	社会的事象について の知識・理解	66.9	72.0	67.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

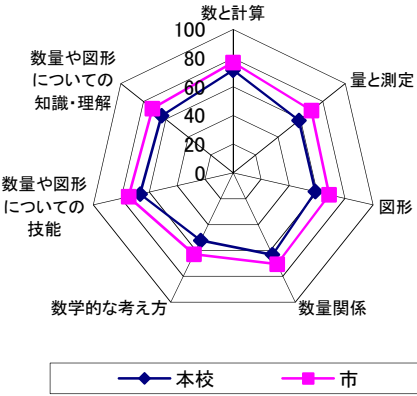
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・日本の周囲の国の国旗や日本の周囲を通る台風の数を示したグラフについての把握は市の平均正答率とほぼ同程度だった。 ・北海道と沖縄県に見られる家の写真を比較して、それぞれの地域でのくらしの工夫について考察することが不十分だった。	・地域の特性を踏まえながら写真を見比べるなど、焦点を絞って資料を読み取り考えにつなげていくよう指導していく。
日本の産業	・燃料電池車の資料の読み取りは市の平均正答率を上回った。また、食料生産にまつわる話題について、日常場面に即した内容と関係の深い資料を把握することは市の平均正答率とほぼ同程度だった。 ・日本の食糧自給率に関する資料を読み取ったり、日本で生産された自動車の輸出に、貨物船を利用する理由について考察し、その内容を表現したり	・資料について、題名や記号、数値など必要な個所を落とさずに見比べ、正しく読み取り判断することが身につけてきているので、今後も指導していく。 ・資料の読み取りをもとに、理由を考えたり自分なりに表現したりする時間を授業の中で意識的にとるようにしていく。
日本の歴史	・日本の縄文時代の生活の様子について、関連する資料を選択することは市の平均正答率を上回った。 ・江戸時代の江戸の様子と文明開化が起こった東京の様子を比較し、変化の内容を比較することや明治以降の出来事についての出題などになると市の平均正答率を下回った。	・もう一度それぞれの時代の主要な出来事を押え、写真や資料から読み取り正しく判断することができるよう指導していき、内容の定着を図る。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.6	77.0	70.4
	量と測定	58.7	69.8	68.5
	図形	58.8	68.6	72.4
	数量関係	63.4	70.6	60.4
観点別	数学的な考え方	52.3	63.0	54.8
	数量や図形についての技能	66.5	74.7	67.3
	数量や図形についての知識・理解	63.8	72.0	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

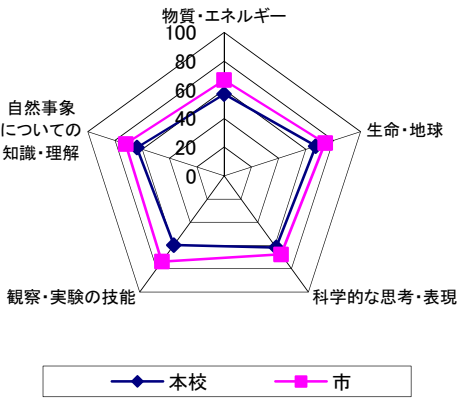
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、市の平均を下回っていた。小数や分数の計算は正答率が高いものもあるが、全体を通して正答率が低いものが多くなった。	・計算問題などはこれからも継続して反復練習を積み重ねていく。また、分数、小数の乗法と除法の混じった計算についても繰り返し練習する機会を設けていく。
量と測定	・三角形の面積を求める問題では、市の平均正答率を上回っていた。体積や速さを求めることの定着は十分とは言えない。	・図形の体積や単位量あたりの大きさや速さを求める公式の意味を実感させる指導を充実させたり、復習させたりする。さらにいろいろな形式の問題練習を解いて工夫しながら求める経験も積ませる。
図形	・平均正答率は、市の平均正答率を下回っている。線対称と円周を求める問題や合同な三角形の作図について、つまづきがあった。	・図形を実際にかく場面を学習に取り入れ、活用できる力をつけていく。 ・立体の構成要素や展開図について具体物を通して学習する時間を設けることで定着を図る。
数量関係	・平均正答率は、市の平均正答率を上回っている。文字の式、比例と反比例の問題はすべての問題で上回っている。割合と比の記述式問題が市の平均を下回っていた。 ・比例・反比例に関する問題は市平均を上回っていた。文字の式の定着はやや不十分であった。	・比例と反比例については、より一層多くの問題に触れさせることで、さらに定着を図る。 ・割合については、基本的な意味・理解につまづきがみられるため基本的な問題について繰り返し復習し理解を深めていく。 ・文字を使った式については、特に取り上げて再度復習をする。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	57.0	66.8	63.6
	生命・地球	67.1	74.0	75.3
観点別	科学的な思考・表現	61.8	67.6	65.0
	観察・実験の技能	59.7	73.8	70.4
	自然事象についての知識・理解	63.9	72.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・「ふりこの周期」は、正答率は市の平均を上回り、十分身に付いているといえる。 ・「ものの燃え方」や「水よう液の性質とはたらき」のは、やや低い正答率だった。	・ふりがが1往復する時間は、ふりこの長さによってかわることや2種類の個体が解けた水よう液の見分け方を、実際に扱う機会を設け、定着を図る。 ・6年のみでなく、5年時の学習も復習するよう声かけをする。
生命・地球	・「植物のからだのはたらき」「生き物のくらしと環境」「人のたんじょう」は、市の平均正答率を下回っている。 ・「動物のからだのはたらき」「太陽と月の形」は、ほとんどの問題で市の平均正答率を上回っているが、設問によって正答率の低いものがある。	・日光による葉の働き、人のたんじょうについて復習し、結果をもう一度まとめさせる。 ・生き物のくらしと環境について、学習して分かったことを自分の言葉でまとめる機会を設ける。